

書店でご注文ください。

曾祖父天心岡倉覚三の実像

岡倉登志 著

四六判・約三八〇頁・並製本・ジャケット装・定価(本体3500円+税)

岡倉覚三天心(一八六三〜一九一三)は、近代日本の黎明期における傑出した思想家、美術行政家、実践的評論家としてその名を残した。文部省の音楽取調掛、専門学務局、国画教育調査会、図画取調掛を歴任、東京美術学校の創立、万国博覧会事務局勤務、日本美術院を創設するなど、日本美術の近代化と覚醒に残した足跡は大きい。また晩年はボストン美術館日本美術部長としてボストン美術館の日本美術コレクションの形成に寄与し、同時に『日本の覚醒』『東洋の理想』『茶の本』の刊行など欧米に日本文化を紹介した影響力も無視できない。生誕一五〇年、没後一〇〇年にあたる今年、歴史家であり曾孫にあたる著者が、これまでの様々な岡倉評を踏まえながら、その人と思想に迫る。

内容目次

プロローグ 美術界巨星の死

第一章 誕生から大学卒業まで 1863～80
生い立ち／東大時代

第二章 西欧文化の受容 1869～87
覚三にとって西洋文化とは何であったか／第一回欧州視察旅行

第三章 教育者として 1889～1907
東京美術学校時代／岡倉覚三と美術院四天王／彫刻科卒業生の見た師天心／外国人の弟子たち

第四章 万国博覧会 1890～1904
明治国家と万国博覧会／シカゴ・コロンブス記念万国博覧会／パリ万国博覧会／セントルイスでの講演

第五章 インド 1901～3, 1912
第一回インド訪問／岡倉覚三とベンガル・ルネッサンス

第六章 中国 1893～94, 1906～7, 1911
第一回中国旅行／第二回中国旅行／第三回中国旅行—シベリア経由満州へ／第四回中国旅行—辛亥革命直後の中国旅行／北京と覚三

第七章 日露戦争前後 1904～6
文化大使・先導者としての覚三／『日本の目覚め』刊行の経緯／フェンウェイ・コートでの日々

第八章 The Book of Tea 『茶の本』 1906
『茶の本』の刊行／『茶の本』への国際的反響／『茶の本』の読み方、読まれ方

第九章 人間覚三の一端 1863～1913
家庭における覚三／岡倉覚三の趣味

エピローグ 東と西は岡倉によって遭った
あとがき／参考文献／人名索引

【著者プロフィール】(おかくら たかし) 1945年生まれ。明治大学卒業、大東文化大学名誉教授。専門は、西洋政治史、アフリカ史、ヨーロッパ・アフリカ関係史。岡倉天心は曾祖父にあたる。最近の著書に、『アフリカの植民地化と抵抗運動』(山川出版社、2010)、『世界史の中の日本 岡倉天心とその時代』(明石書店、2006)、『岡倉天心 思想と行動』(共著、吉川弘文館、2013) など、著書多数。

十三松堂茶会記

正木直彦の茶の湯日記

依田 徹 編

〈発売中〉

A5判・二九二頁・上製本・ジャケット装・定価(本体4500円+税)

本書は『正木直彦夫妻茶会記』『正木直彦日記』(共に東京芸術大学附属図書館蔵)より、正木直彦(天心と同年生まれ)と同夫人の茶会記の記述を翻刻・編集したものである。天心の後を受け、美術行政・美術教育の分野で貴重な足跡を残した正木が遺した明治44年から昭和16年までの茶会記には、益田鈍翁、松永耳庵、原三溪、小林逸翁、高橋常庵、田中仙樵、川合玉堂、北大路魯山人、佐佐木信綱、徳富蘇峰など、各界の名士が登場する。その人物交流の様子は、美術史・茶道史に新たな光を当てるだろう。

注文書		
書店(帳合)印		
条件		
注文数	担当	
冊	様	
書名	発行 株式会社 宮帯出版社 京都市上京区真倉町七三九-1 TEL075-441-7747 FAX075-431-8877	
曾祖父天心岡倉覚三の実像		
岡倉登志 著		
ISBN978-4-86366-903-1	C0023 ¥3500E	
定価(本体3500円+税)		
年	月	日

注文書		
書店(帳合)印		
条件		
注文数	担当	
冊	様	
書名	発行 株式会社 宮帯出版社 京都市上京区真倉町七三九-1 TEL075-441-7747 FAX075-431-8877	
十三松堂茶会記		
正木直彦の茶の湯日記		
依田 徹 編		
ISBN978-4-86366-885-0	C3023 ¥4500E	
定価(本体4500円+税)		
年	月	日

株式会社 宮帯出版社

〒602-8488 京都市上京区真倉町739-1 www.miyaobi.com
TEL.(075) 441-7747 FAX.(075) 431-8877